

ヒラケル由有書

田路修良先生講義

外科各論

硬部

可考ス

中七取 環状管切開術ノ形式

(実技的里臣性喉頭検査ニ自ラ特ニ論ス)

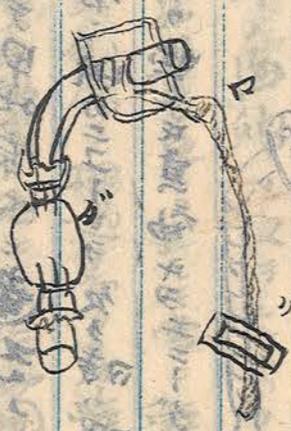
実技的里臣性喉頭検査ニ自ラ特ニ論ス
此レは僅ニ括弧内見ルヲ吸入セシメテ後急々呼吸困難増強シ為ニ速喉痛ヲ察止ニ可
クナリ又時々血液ノ酸化程度衰シ喉酸其内ニ蓄積スニ因リ一極ノ知覚鈍
麻ヲ致シ息思フノ手術ノ疼痛ヲ只僅ニ感セシムルヲ術ニ当テハ息思フニテ切取
カシメ頂部ニ枕子ヲ置キ介者由テテ以テ後頭ヲ後方ニ牽キ且ツ固定シテ頰ノ
前部ヲ露出セシ術者ノ頸ヲ手指ヲ以テ甲狀腺ガ且環状軟骨ノ諸部ヲ吐方ヨリ
穿刺シ以テ明カニカクテ下ニ手指ヲ定ムヘシ蓋シテ喉頭ハハシラ其皮ヲ因像的
ニ穿リテ呼吸困難ニ感セシメテ喉頭血ノ前部ニ穿リテ一極ノ喉頭検査後同多ク
所謂アナル橋ノ突出スルニ其ノ少キカ故ニ突出ニ其初位ヲ認知シ難キナリ以テ

ナリ皮膚層ニ切開スニ左手ノ拇指及示指ヲ以テ其部ノ皮膚ヲ左右ニ緊張シ甲狀軟骨ノ下
部ヲ環状軟骨且氣管上部ノ中線ニ準テシテ全ク鉛直ニ切開スニ切創ノ長クハ大約五cm
ニシテ之ニ於テ左右ノ胸骨合骨間中線ニ於テ輕々左部ノ縁ヲ木片或ハ竹片中同厚
ヲ搜索シ諸テ之ヲ切離スニ以テ此レハ常ニ其中線ヲ失ハスニ血管ヲ傷ツケルノ恐ナリ
而シテ何レ鉛直ヲ取リ其間ヲ左右ニ抽回ス時ハ上方ニ環状軟骨甲狀軟骨ノ見中ニ環
状軟骨ノ前部ヲ見其下部ニ於テ直ニ甲狀軟骨ニ見入リテ蓋シテ上方氣管切開術ヲ施ス
テ甲狀腺嚥上ノ部ニ密接シテ結締織ヲ横切スル際ニ全環状軟骨切開術ヲ施スニテ
此ニ時トシテ甲狀腺ノ中ノ實即或薄クシテド指穿起ラシ環状軟骨及上部氣管軟骨
輪ヲ破ラフアハカ故ニ宜ク注意スルニ此レハ蓋シ其右一定セシ待リ又更長クテ各層ニ透
スルナリ(即ち如シ)環状軟骨ヲ露出スルニ多クハ一ノ穿針法ヲモ要セテ各々切取
ルニ此血蓋ハハカ然レ呼吸困難甚ク強クシテ呼吸困難血蓋ニ於テハ為ニ呼吸困難ヲ
致スル故ニ呼吸困難切開ニ先カ結核菌菌ノ穿針法ニ用リテ之ヲ制止セザレ可

此後接用カニエーラ用ニ之ハ必スニ一レラ備ハ呼吸上ニ向テ声門ヨリ口腔
 ニ達スルモノナリ或ハ口鏡有テ下端ヲ存シ其下端氣管ヲ嚙ラ互ニ追テカニエーラ即
 チカニエーラカニエーラヨリ又ハ口鏡ノ外ニニ氣ヲ吐ク呼吸ニ此レヨリテ呼吸
 ニ声門ヨリ口腔ニ達スル装置カニエーラヨリテ喉頭ヲ嚙ラ不活ノキ
 鏡ヨリカニエーラノ装置ヲ受テカニエーラノカニエーラニ接シテ喉道ヲ
 ノモノヲ良クスル事ニ鏡有テ其一部鏡ヲ喉頭ニテ氣管有テ此部ヲ
 入スルアレハナクエ取ヲ受テスル
 此ニテ喉道ヲ鏡ノモトニカニエーラノ鏡有テ喉道ヲ以テテ
 カニエーラ管内ニ声門ヲ嚙ラカニエーラヨリテ



之ハ氣管ニカニエーラ用ニ之ハ必スニ一レラ備ハ呼吸上ニ向テ声門ヨリ口腔
 ニ達スルモノナリ或ハ口鏡有テ下端ヲ存シ其下端氣管ヲ嚙ラ互ニ追テカニエーラ即
 チカニエーラカニエーラヨリ又ハ口鏡ノ外ニニ氣ヲ吐ク呼吸ニ此レヨリテ呼吸
 ニ声門ヨリ口腔ニ達スル装置カニエーラヨリテ喉頭ヲ嚙ラ不活ノキ
 鏡ヨリカニエーラノ装置ヲ受テカニエーラノカニエーラニ接シテ喉道ヲ
 ノモノヲ良クスル事ニ鏡有テ其一部鏡ヲ喉頭ニテ氣管有テ此部ヲ
 入スルアレハナクエ取ヲ受テスル
 此ニテ喉道ヲ鏡ノモトニカニエーラノ鏡有テ喉道ヲ以テテ
 カニエーラ管内ニ声門ヲ嚙ラカニエーラヨリテ



此管ヨリカニエーラ管内ニ挿入シテ後カニエーラノ管ヨリ喉頭中ニ空氣ヲ吸入シテ而シテ
 呼吸スルモノナリ或ハ口鏡有テ下端ヲ存シ其下端氣管ヲ嚙ラ互ニ追テカニエーラ即
 チカニエーラカニエーラヨリ又ハ口鏡ノ外ニニ氣ヲ吐ク呼吸ニ此レヨリテ呼吸
 ニ声門ヨリ口腔ニ達スル装置カニエーラヨリテ喉頭ヲ嚙ラ不活ノキ
 鏡ヨリカニエーラノ装置ヲ受テカニエーラノカニエーラニ接シテ喉道ヲ
 ノモノヲ良クスル事ニ鏡有テ其一部鏡ヲ喉頭ニテ氣管有テ此部ヲ
 入スルアレハナクエ取ヲ受テスル
 此ニテ喉道ヲ鏡ノモトニカニエーラノ鏡有テ喉道ヲ以テテ
 カニエーラ管内ニ声門ヲ嚙ラカニエーラヨリテ

ラ用ニ蓋シ甲吹吸噴、或リ甲吹吸噴後キテニ於テ其下部ニ於テ毎管如前
ラ地ニ能ク故ニ氣管ヲ按察ナラシムル種々如ク甲吹吸噴ノ上部ニ於テ
切開シ地サシヘカラス者ハ其カニテレ通者ノ者ナシトテ切開シ部ヲ受通
シテ其下ニ達スル能クス且ラ其ノ長キカニテレ切開シ部ニ於テ其ノ通
ルニ阻障ニ由ラず由性ヲ甘與シ受通シ且ツ其ノ通ルニ阻障ニ由ラズ
シテ甲吹吸噴下ニ達スル能ク得ルニ由リ即チキテエニテレカニテレ切開シ
者ニ於テカニテレラタク時ニ障中時ニハシトシテ^{食道}ノ上部ヲ切開シ其下部ヲ代用スル
アツルニ其効キヨエテレガハ螺蛳狀カニテレ切開シキヨエニテレガ民カニテレ切開シ



第九項 氣管開後ニ於テガブテリヤノ右種法
氣管切開術後ノ創傷ヲ論スルニ於テ開放的ニテラス何ヤシニ呼吸ノ為メニ其カ

ニテレラ切開シ後ニ於テ防衛的綑帶ヲ行ニ通セシムルニテレ毎常ニテレラ
テラフ(カニ)一カニ或ハ防衛的ガツセシムルニテレカニテレラ切開シ後ニ於テ
ニテレ創面ニ甲種ノ向ニ押置スル要ス或ハカヤセ等ニ替スルニテレ酸水ニ浸シ
淨ノ海綿ヲ以テラシムルニテレ若シガブテリヤニテレ他種ノ者ニテレ創傷後
ハ其ノ善良ナリテレ常ニ瘻管ノ化膿ヲ来スラ免スルニテレガブテリヤニテレ
其創傷ノ押置等ノ者ニテレテレラ

瘻管の里ノ為ニ氣管切開ヲ施シ其患者ハ百人中其死セキ者ハ五十人トシテ
キニ者ハ(流行ノ多ナリ且其後ノ善悪ニ因テテ其死セキ者ハ)是レ一ニテラテラヤ毒患者
ノ全多ヲ僅スニ由リ一ニ其初後ノ善悪ニ由リテレ其死セキ者ハ五十人トシテ
續ニ一ニ其死セキ者ハ五十人トシテ其初後ノ善悪ニ由リテレ其死セキ者ハ五十人トシテ
効ニ其死セキ者ハ五十人トシテ其初後ノ善悪ニ由リテレ其死セキ者ハ五十人トシテ
効ニ其死セキ者ハ五十人トシテ其初後ノ善悪ニ由リテレ其死セキ者ハ五十人トシテ

連ニ之ヲ別當ラ 賦クシ又始身母酸等ヲ以テ 喬融スル所ニ此等ノ物ヲ
陰者ニ尤モ確實ニ方法ハ先ツ下氣管如前例ヲ施シ控塞カニテシヨ辨
別シ此新氣口ニ由リ呼吸セシメ而シ後者氣口ヲ如前シ其聲地ノ相違ヲ
リ之ヲ陰者ニマリス



喉頭ノ組織的構造 此初ノ氣管如前例ニ其スル所ニ此所ニ爲ニ結
核スルニマリスノ氣管如前ノ例用和即殊ニケニス性標本性喉頭在
初メニ結核スルモノトス而シ氣管ノ組織的構造ノ相ヲ四ツニ見ルハ
第一ノ項 喉頭構造及喉頭鏡的検査ヲ論
喉頭構造ノ原因ハ息ヲ諸般ニシ之ニ属スル所ノ和ハ既ニ上文ニ論
述セリ今之ヲ同單ニ列等スルハ右ノ如ク

第一ノ項 喉頭中如割ニ軟骨片多シハ此外傷ニ於テ粘膜下層ニ固
スル時ニ喉頭構造ノ其相違ニ當リ 喉根萎縮ニ用スル結核喉頭構造
ニ注意スルハ若シ異物ノ周圍ニ化膿カラズニテ後ニ至リテ又組織的
喉頭構造ヲ来スルヲ
第二ノ項 此種ニ於テモ亦性腫脹ニ因テ特ニ喉頭構造ノ他種根
萎縮ニ用スル結核喉頭ヲ區別スルハ而シテケテラニ於テハ性腫脹性
結核ニナリトス之ニ至ラテケニス性腫脹性喉頭ニ用スル結核性喉頭
性喉頭ニ見ルハ其ノ相違ニ至ル
第三ノ項 喉頭腫脹 今其緊要ナル者ヲ大別シテ左ノ四種トス
一 息肉性有蓋喉頭 喉ノ声門帯ニ在ス
二 外頸腫性有蓋喉頭 (血蓋トハ一ノ種キ星塵部ヲ有セシ腫脹其表面乳頭
ハ舌帯截ヨリカ放ニ齧シニ截直腫ニ傷スト血性 其表面外頸性ニ分割セシラ

以テ外頭腫ノ名アリトス。パヒロー

(六)ニ史。痛ハ多ク、蓋ガ軟骨ノ邊ニ起ル。傳ノ舌門帯ニ向テ蒼蒼ノ同時ニ
著。後方ニ蒼蒼ニ咽頭ノ下端ヲ侵ス。

(三)内腫。サレテマ、ハ多クハ喉頭ノ側壁ニ生ス

(イ)ニ論。凡テ有テ、我ニ時ハ其聲門ニ被觸ス。際只一時、痰索ヲ起スニ
足ラス。此腫ヲ患フ患者ハ多ク、只嘔吐ヲ禁テ、不食ヲ望ム。ハ痰液ヲ吐

或ハ喉頭腫ヲ治スニ、喉頭鏡的検査ヲ要ス。此検査ヲ行フニハ
諸般ノ種類トモ器械アリトモ、尤ニ其用略ノ方法ヲ講セ、其即

此検査ヲ行フニ、赫々ト燃カト、檢鼻挿耳等ニ用ス。ト同一ト、單々射鏡
ト有柄、ハ及射鏡トシテ、其意者ヲシテ、其名未ク、纏包シ、自室ヲ

指ラ以テ之ヲ射鏡ニ導キ、之ニ因リテ、會厭軟骨ヲ前方ニ位轉シ、術者
九手ヲ以テ、有柄ニ射鏡ヲ取り、之ヲ口蓋乳ニ正點シ、(六)ヨリ及射鏡ニ、

之ヲ鉛直ノ方向ニ喉頭ニ射ス。セムヘシ之ヲ行フ、前頭ノ水始ニ、コトヲ有柄小
及射鏡ヲ置、喉ニ口腔ニ於テ水蒸氣ノ白濁ニシテ、以テ検査ニ就テ見シ

喉頭映像ニ轉倒、因テトス。右ニ検査ノ際、患者ヲ、喉ヲ唱ヘシムルハ、由第
著シク、用張シ、之ニ因テ、氣ヲ多ク、以テ、喉ヲ得ヘシ、而シテ、検査ニ頻ニ

懸練ラ、要スルモノトス

第十二項 喉頭検査ヲ行ハス之目的ヲ以テ、施スル、喉用切法ヲ論ス

此係性及、其性、喉頭検査ノ、特長トス。ハ、喉頭切開法ヲ、施サス、專ラ、氣ヲ

切開術ヲ、施スヘキ、ハ、既ニ、上文ニ、論セリ。其、名ニ、受物、喉頭内ニ、指田スル、或ハ

喉頭軟骨外傷ニ、因リテ、轉位スル、ハ、其、最良ノ、果ニ、屬、喉頭切開ヲ

行ハシ、可ラ、其、ツ、リ、置シ、喉頭切開ヲ、行フニ、ハ、喉頭鏡ヲ、使用シ、且、長柄ヲ、有

ス。蓋、由、鏡子、鉗子、小、鉗、等ヲ、用テ、喉頭内ヲ、異物ヲ、摘出シ、能ハシ、時ニ、就テ、ス

可シ、又、喉頭軟骨、折テ、転移スル、ハ、口内ヲ、施術スル、モノトス。其、目的ヲ

達ニ能クシテ常ニ喉頭切開ヲ施スル確實ノ法トス

外傷及老病ニ絶然スルハ、痲痺性狹窄ニ於テモ喉口切開及喉頭切開
ヲ行フニナリ即此狹窄ヲ既ラ喉内ニ於テモ痲痺ヲ去リシテ痲痺
性痲痺或ハ空氣ヲ盈タスルニ彈カコム管或ハ他ノ擴張器械ヲ挿入スル
ニ用リ蓋シ彈カ取極的狹窄アリテハ襌ヲ先ツ氣取切開術ヲ施スニキ事ナ
ク多クシテ喉頭切開ヲ行フノ前氣取切開口ヲ上祀ノ器械ヲ喉頭ニ
挿入スルヲ試ムヘシ

又テゴロイス氏ハ氣取カテシテ兩手ニ區別シ各手括別ニミテ挿入シ而シテ
擴張置フ以テ之ヲ連合固定ノ器械ヲ創製ス即同ノ如シ
右ニ記ス諸器械ヲ用ヒ比シテ寧ロ氣取切開ヲ施スラ以テ優レリトス
蓋シ狹窄切開露出其トハ輕重等ニ隨テ痲痺部ヲ切開スル等ノ治法ヲ
自由ニ行フヲ得ルヘシ然レトモ此ハ喉頭切開術ノ祖傳ノ術ニ似テハ用

ノ痲痺的喉頭狹窄ニ於テハ喉頭切開ヲ復スル事莫クハ屢ナリトス又擴張
張法ニ於テモ後ニ考テ痲痺的萎縮ヲ去ルノ虞ナキヲ免レ難ク故ニ痲痺
的痲痺ニ於テハ擴張法ト切開法トヲ論ヒス後角ニ痲痺萎縮ヲ去ル
ヲ完全ニ除クハ能ハズトス

細考ナクハ喉頭腫瘍ハ肉ヲ之ヲ除クニハ刀更ニ短ク容スル故ニ此
等ノ腫瘍ヲ除クニハ喉頭鏡的手術ヲ行フヲ以テ最モ善ク即喉頭鏡的目
ヲ喉内ニ照明シ術者ノ器械ヲ口内ヨリ喉頭ニ送リテ腫瘍ノ基ヲ固定シ表
面切離然ル等ニ由リ之ヲ除クニハ刀又ハ喉頭鏡的ニ切スル者ナ
ク切開トモハ器械ヲ挿入スル術ヲ及復施用シ逐ニ之ヲ除クニ得ル故ニ
喉頭上蓋腫ニ於テハ喉頭切開ヲ行フニ他ニ治法ナキニトス(パーザル氏ニ據
二十九人ノ喉頭腫瘍患者ニ喉頭切開術ヲ施シテ其後ヲ得ル者ト名
腫喉咽頭下部或ハ食道ノ上部ヲ侵スニ至ルハ喉頭切開ヲ行フニ最モ困

喉舌の管
ヨシトウ
ヨシトウ
ヨシトウ

一、シラ挿入、ノ試事ヲ欲スルカニシテ、ノ氣管カニシテ、ノ接合ニシテ、ノ呼吸ヲ咽頭
鼻腔及口腔ニ導キ、ノスリ、ノ舌ヲ喉音ニシテ、ノ而シテ、ノ患者ハ、ノ漸次ニ、ノ舌及咽頭
ノ通直ニ使用スル、ノニ、ノ習慣シ、ノ使、ノハ、ノ方ニ、ノ通直ニ、ノ舌ヲ、ノ起テ、ノ飲食物ヲ、ノ食
道ニ、ノ導キ、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ(即、ノ使、ノ全、ノク、ノ作、ノシ、ノ於、ノテ、ノ飲食物ヲ、ノ通、ノ過、ノニ、ノ際、ノニ、ノ喉頭
ノ、ノ田、ノ領、ノニ、ノ田、ノノ、ノ作、ノ用、ノヲ、ノ管、ノト、ノシ、ノ子、ノ韻、ノヲ、ノ喉、ノ音、ノニ、ノ單、ノニ、ノ呼、ノ氣、ノヲ、ノ咽
頭、ノ口、ノ腔、ノ及、ノ鼻、ノ腔、ノヲ、ノ通、ノ直、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ足、ノハ、ノモ、ノナ、ノリ、ノト、ノ魚、ノ片、ノ四、ノ齧、ノヲ、ノ喉、ノ音
ト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ即、ノ此、ノ果、ノ實、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ動、ノ動、ノニ、ノ必、ノズ、ノ細、ノホ、ノス、ノ銀、ノ舌、ノヲ、ノ突、ノ音、ノノ、ノ用、ノヲ、ノス、
而、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ長、ノ舌、ノ婦、ノ人、ノニ、ノ短、ノ舌、ノヲ、ノ三、ノ齧、ノ音、ノノ、ノ用、ノヲ、ノス、ノヲ、ノ應、ノ自、ノニ、ノ以、ノテ、ノ思、ノ女
天然、ノニ、ノ舌、ノ子、ノノ、ノ音、ノノ、ノ高、ノ低、ノニ、ノ擬、ノス、ノ此、ノ裝、ノ置、ノニ、ノ由、ノテ、ノ談、ノ話、ノス、ノハ、ノ時、ノハ、ノ其、ノ音、ノ單
一、ノニ、ノ柳、ノ楊、ノト、ノ之、ノノ、ノ間、ノノ、ノノ、ノ音、ノノ、ノ奇、ノ異、ノノ、ノ感、ノ覺、ノア、ノリ、ノト、ノ魚、ノ片、ノ而、ノシ、ノ猶、ノ談、ノ話、ノヲ、
理解、ノシ、ノ得、ノヘ、ノト、ノ此、ノ最、ノ難、ノト、ノ意、ノ申、ノス、ノニ、ノ患、ノ者、ノヲ、ノ自、ノ由、ノニ、ノ銀、ノ舌、ノヲ、ノ裝、ノ口、ノル、ノ極、ノカ、ノニ、

一、シヨリ除、ノ去、ノハ、ノ且、ノツ、ノ用、ノト、ノ之、ノヲ、ノ挿、ノ入、ノス、ノレ、ノ便、ノヲ、ノ得、ノセ、ノト、ノカ、ノラ、ノス、ノ故、ノ又、ノ何、ノト、ノニ、ノ不、ノ施、ノ以、ノ後
音、ノ聲、ノ置、ノラ、ノ着、ノス、ノ時、ノハ、ノ其、ノ呼、ノ吸、ノ稍、ノ用、ノ強、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ精、ノ液、ノ銀、ノ舌、ノニ、ノ合、ノ着、
ス、ノハ、ノ其、ノ聲、ノ聲、ノ吸、ノス、ノニ、ノ由、ノリ、ノ時、ノハ、ノ其、ノ揚、ノ除、ノヲ、ノ強、ノク、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ力、ノニ、ノ一、
ニ、ノ施、ノス、ノ其、ノ口、ノ腔、ノニ、ノ短、ノ舌、ノ也、ノ部、ノニ、ノ此、ノ音、ノ各、ノノ、ノ有、ノシ、ノ患、ノ者、ノ談、ノ話、ノヲ、ノカ、ノル、ノキ、ノハ、
極、ノカ、ノラ、ノス、ノ按、ノ者、ノ以、ノテ、ノ快、ノク、ノ前、ノ部、ノ部、ノヲ、ノ呼、ノ吸、ノス、ノハ、ノ裝、ノ置、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ喉、ノ腔、ノ切、ノ除、ノト、
カ、ノラ、ノス、ノ之、ノ喉、ノ腔、ノノ、ノ大、ノ部、ノ右、ノヲ、ノ切、ノ除、ノス、ノカ、ノラ、ノス、ノ例、ノニ、ノ高、ノ舌、ノ腔、ノノ、ノ喉、ノ腔、ノ切、
除、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ左、ノノ、ノ喉、ノ腔、ノヲ、ノ右、ノ用、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ甲、ノ成、ノ軟、ノ骨、ノノ、ノ中、ノ部、ノヲ、ノ切、ノ除、ノト、
カ、ノラ、ノス、ノ是、ノト、ノシ、ノカ、ノラ、ノス、ノ此、ノ術、ノヲ、ノ施、ノス、ノハ、ノ極、ノカ、ノラ、ノス、ノ極、ノカ、ノラ、ノス、ノ

第二章 甲成喉ノ外傷及瘻病

第十五項 甲成喉ノ外傷トモト

甲成喉ノ外傷トモト、ノ損傷ヲ、ノ受、ノク、ノ息、ノヲ、ノ稀、ノク、ノ何、ノト、ノカ、ノラ、ノス、ノ一、ノ口、ノ自、ノ當、ノテ、ノ談、ノ話、ノス、ノ際

喉部或ハ氣管ヲ自傷スルハ一ニ見ルモ即此ハ喉ノ損傷ノ
時ニ於テハ氣道ノ損傷ニ由ルニ素ヨリ輕易ナラズ而シテ喉ノ損傷
ニ其側葉ヲ損傷スルニ於テハ其高處ノ主幹ヲ損傷スルヨリ
強動スル血ヲ失フ常ニ(甲狀腺ハ元々高處ノ血管ニ富ムカ故ニ例ニ
主幹ヲ損傷スルニ當リテ)又ハ血管切斷行ハ行ハ時ニ甲狀
腺ヲ損傷スルニ免レシカモトス

甲狀腺ハ廣其副喉ヨリテ通常喉ノ首後ニ頸部ノハニ於テ之ヲ見
ルニ任令ハ咽部側壁胃管例ニ等シニ於テ副喉ニカカレ
勿雅ニ見ルニ於テハ其副喉味多クハ環狀軟骨ノ下縁ニ密接スル血
成人ニ於テハ味ノ上ニ上部氣管軟骨輪ノニヲ見ルヲ常ニ
氣管切斷際ニテ果喉味ヲ切斷スルハ最初ノ數日同ニ於テ喉皮軟
腫脹スルヲ及ニシ時ニハ甲狀腺且副ノ腫脹性高致性荒蓋ヲ致スルカ

是ニ至ルニ喉ノ損傷ヲ及ニシカモ即此ハ喉ノ損傷ニ由ルニ
侵襲セラレハニ由ルヲカトス

甲狀腺且副ノ損傷ニテアランカモ甲狀腺ニテイルライトカク此カニ健全
無病ノ甲狀腺ニ於テハ切斷テ始メ見ルニカモ一ツカカク此カニ果
ニ成形過多ヲ生ズルニ由リ果喉腫ヲ生ズルニ其同僚ニテニ異ナリトス又他
性腫毒及他ノ傳染性熱病(チフス等)ニ於テ健全ノ甲狀腺ニ轉移
シテ生ズルニ始メテ之ヲ見ルニ果甲狀腺腫ニ於テハ一ツカカク轉移性甲狀
腺腫ヲ生ズルカ

其他甲狀腺腫者ハ甲狀腺ニ屬スルカモ一過性甲狀腺腫脹ヲ見
ルニ屬スルニ即婦人月經時或ハ妊娠ノ初期ニ於テ之血ニ由ル
甲狀腺腫脹ノ如キハ之ニ屬ス

第十六項 甲狀腺腫生及ニ原因

甲状腺腫 (ストローム、又、クランプ) 大率 エンテシ性ニ發スルニシテ、此原因
ヲシテ、エンテシ性甲状腺腫ノ多ク (ストローム、エンテシカ) 而シテ、エンテシ性ニシテ、甲状腺
腫ヲ發スルハ、殆トシテ、山地方ニシテ、畫ハ、モントス
較シテ、グズ、或、甲状腺腫患者多ク、ヌタイ、エ、コルク (地) ノ、山谷ニシテ、チ、ウイ
ク、種ニ屬スル、痛、或、ヲ、其見セリ、而シテ、此、活、或、宜ニシテ、其、生、之、キ、ハ、甲状腺腫、病
者、多ク、又、活、或、ノ、其、生、之、キ、ハ、甲状腺腫、患者、亦、随テ、減、ス、ト、シ、フ、又、ク、シ、フ、ク、シ、
此、痛、或、ヲ、他、地方、ノ、水、ニ、移、シ、テ、生、殖、セ、シ、其、水、ヲ、持、長、シ、テ、大、ニ、與、ハ、或、ハ、大、ノ、甲
状、腺、却、ニ、任、入、シ、テ、容易ニ、甲状腺腫ヲ、發、生、セ、シ、タリ、
甲状腺腫、及、地方、ニ、シ、テ、左、シ、ク、エンテシ性ニ、乘、ル、ザ、リ、一、疾、患、アリ、即、チ、是、大、病
發、ス、ル、之、シ、テ、
右、ニ、論、ス、ル、ニ、シ、テ、性、甲状腺腫、及、他、地方、ニ、在、性、ニ、乘、ル、或、ノ、モ、テ、ウ、此、病、ハ
一、種、特、異、シ、ク、眼、球、凸、出、心、悸、之、進、及、甲状腺腫、ヲ、同、時、ニ、合、發、ス、ル、ヲ、獨

ニ、因、シ、テ、ウ、此、病、ヲ、バ、セ、ド、ウ、ハ、病、ト、シ、テ、英、國、ニ、於、テ、ハ、グ、レ、イ、空、ス、此、病、ト、シ、テ、
是、大、病、甲状腺腫、ニ、其、多、ク、ナリ、ト、魚、氏、ハ、同、ニ、於、テ、甲状腺腫、ヲ、發、ス、ル、ト、シ、テ、セ、
第、十、七、次、 甲状腺腫、ノ、種、類、
甲状腺腫、ヲ、解剖、的、ニ、區別、シ、テ、左、ニ、發、行、ト、ス、ル、ニ、是、ニ、此、區別、ノ、病、床、的、ニ、モ
亦、緊、要、ナ、リ、ト、ス、
一、單純、性、或、形、過、多、性、甲状腺腫、
此、ノ、病、ニ、肥、大、セ、シ、テ、諸、他、甲状腺腫、中、最、モ、多、ク、見、ラ、レ、ル、病、床、的、ニ、一、腺、件、一、種、ニ、増、大、
其、硬、固、ノ、感、甚、シ、カ、ラ、レ、ル、ニ、由、リ、之、ヲ、山、主、知、ス、ル、
二、膠、囊、性、或、形、過、多、性、甲状腺腫、
此、ニ、シ、テ、常、ニ、緊、縮、ス、ル、病、床、的、ニ、有、シ、合、發、ス、ル、ヲ、又、甲状腺腫、ヲ、發、ス、ル、ノ、甲状腺
且、其、内、ニ、小、腺、ヲ、含、ミ、内、ニ、粘、稠、ト、シ、ク、膠、液、ヲ、合、發、ス、ル、一、種、之、シ、テ、此、ニ、甲
状、腺、腫、ヲ、發、ス、ル、ハ、此、ノ、合、發、ス、ル、ヲ、發、ス、ル、者、ト、シ、テ、腺、腫、柔、軟、ト、シ、テ、

小囊五ニ融合シテ大ニ空同ニ變シ内ニ膠様ヲ含ム

三 囊腫性甲状腺腫 ストローム 常ニ甲状腺腫ノ局所膠様変性ヲ生ズ

十 其一部或ハ全部ニ流シ合膠様融合シ以テ不透明ニ囊腫性空

同ニ變スニ由リテ發生ス此空同ニ囊腫液ヲ更ニ血管ニ漏ラシ

雅且或ハ全身ニ外噴様増息ヲ致ス若シ此囊腫内ニ出血ヲ生ズ

琴様液ニ初テ暗褐色ノ液ヲ含シ高ス此如ク囊腫性ニ變ス部

ニ甲状腺腫且或ハ球状ニ變修スラ常トス之ヲ精密ニ検査ス

動ヲ呈スルハ

四 血管性甲状腺腫 ストローム 之ニ血管殊ニ動脈ノ拡張ニ原因ス

其拡張易キ時ハ皮膚ヲテ膨大拡張セル脈管ヲ搏動ヲ認知シ且チ

指ヲ以テ血流ノ脈搏ニ應シテ 脈動スル所知シ得ヘシハ此ニ腺腫ニ其石

然歟ハ 頸皮ノ一アノサリマスニケルイデスニ 類似ニ故ニ又一ニ

腺腫 ストローム ノ名称アリ又軟近シツケルハ小兒ニ於テ若シ血管ノ拡張

アリテ搏動ヲ呈スルハ 甲状腺腫ヲ極見シ之ニ合スルニ 搏動性甲状腺腫 ストローム

ヲ以テス

初理解剖ニ於テハ記セテ種々ノ外截在性甲状腺腫 ストローム 石ニ變

性甲状腺腫 ストローム 常ニ血管性甲状腺腫 ストローム (ストローム) 之ヲ區別ス

成形過多ニ起目スル甲状腺腫ハ真ニ悪性腫瘍ヲ甲状腺ニ生ズ

健全ナル甲状腺ニ於テハ或ハ陳旧ナル甲状腺腫ニ生ズ(此種ニ於テハ

以テ腫瘍ノ名称ノ名故ニトラス) 此悪性腫瘍ハ肉腫様腫瘍ノ肉腫ハ非

常ニ大ニ腫瘍ヲ形成シ且チ急速カクテ之ヲ鋸斷スヘシ又、

腫瘍性ニ柔軟大結核性ヲ生シ或ハ截在性腫瘍ニ著痛性ヲ生ズ

截在性ニ於テハ若シ奇形性ノ腫瘍様結核性ヲ生ズ

腫瘍性結核性ノ若シ奇形性ノ腫瘍様結核性ヲ生ズ

腫瘍性結核性ノ若シ奇形性ノ腫瘍様結核性ヲ生ズ

小の素より金候トナシラス時トハ此端ホニ由リ気管狭窄ヲ来シ呼吸困難ヲ
存スルヲ

稀ニ甲狀腺腫結節ヲ遠達桂子(江ノ比)ヲ生シ悪性ノ経過ヲ取ルル
蓋シ素軟ク腫瘍結節甲狀腺内ニ増息其一分血液ニ由テ断離
セラン遠隔セル体内ニ四肢骨ノ骨髓且截内ニ腫瘍轉移ヲ以テ由ル
リ

別大項 甲狀腺腫ニ於テハ 若葉 甲狀腺カ 甲狀腺腫ニ於テハ

急死

甲狀腺腫ニ發ス若葉ニ天ニ轉重シク萎アララハ心スニ 腫脹ノ大ホ一吸セテ放ニ大
ス甲狀腺腫ニ強ト著葉ニ者ヲ又ホテ甲狀腺腫ニ急死者強劇ニ若葉ヲ
新スルル而シ尋常ノ甲狀腺腫ニ於テハ 喘下困種ヲ来スニ稀ナリニ急死ニ
ニ及方咽頭後甲狀腺腫ニトシテガ 胃管後甲狀腺腫ニトシテガ

ニ於テハ 喘下困種ヲ發スニ常ニ具他患者若葉ニ有リ呼吸困難
ラニニ此者ニ之ニ具腺腫ノ大ホニ用ヒテ主ニ呼吸困難ノ位置関係
ニ用テリ即甲狀腺腫ノ気管ノ後壁ニ向テ發育スルハ其圧迫ニヨリ具
呼吸困難ヲ来ス又硬固大気管前壁ニ 腫レ 圧迫セラレテ気管内全ク
狭窄ヲ来スルルアリ 其他気管壁ニ一極ノ軟化ヲ来シ其内徑ニ依然ノ病
害ニ至キモ強ク 頸ノ節ニ屈曲シ或ハ甲狀腺カ除ノ際之ヲ牽引スル
ニ由リ呼吸管壁ノ收用ヲ来シ病ニ重息ヲ發スルルアリ又甲狀腺腫左
右両側ヨリ気管ヲ圧迫シテ恰モ 劍鞘ノ如ク變形セリ 同次ニ氣管狭
窄ヲ来スルルアリ

沈伏性甲狀腺腫ニハハニテハ 頸ノ中線ニ位スル小ホ甲狀腺腫ニシテ不定中
量感ハ缺クシ呼吸ニ甚シク容易ニ移動スル性ヲ有シ呼吸運動ニ際シテ胸
骨上窩ニ向テ下降沈伏シ以テ氣管ヲ圧迫スルニ常ニ 日々急峻ニ至ラス

之ニ化膿成ハ膏状ヲ結核ニシテ切開シテ行ハスニカラス
而シテ膿ノ切開シテ膏ニ化膿成ルニカシテ穿針法ニ熱焼灼等ニ因リ之ヲ
止スルニ膏ノ膿腫ニカシテ其種ヲ膿内ニ増息セハ血管ニ富ミカスニ膏狀
組織ヲ剝取ルニ血ヲ来シ膏常ノ止血法ニ効ナク止テ得ル長キ血出ニ針ヲ取
膿腫ノ根ヲ貫穿シテ膿ヲ結核ニシテ膿腫ノ血且膿ヲ絞取ルニ
切開後膏ヲ焼灼成ハフコトニ重テ以テ其且膿ヲ膏融スルニ膏射ヲ防
止スルニ切開ニ速カシテ血ヲ取リ膿毒ヲ去リ老瘻ヲ治スルニ効ナク
甲狀腺腫切開ハ容易ニ行ハスニ所ノ三層ニ至リ且其一部ヲ切開
スルニ準リテ容易ナリトス而シテ甲狀腺腫ノ大部分及部位其他周囲ノ疼痛
ハ若シキ其ノ長キカシテ一定ノ手術ヲ行ハスニ能ハスニカシテ膿腫
ノ諸件ハ以テ手術ノ法別ニ記載スルニ
五腫瘍ノ周囲ヲ膏ヲ露出スルカ爲メニ皮ヲ切開シテ之ヲ露ス

排

第三の肋骨骨節、胸骨甲狀腺、其他諸部ヲ切開シテ行ハスニカラス
ヲ切開シテ膿ヲ絞取ルニ切開シテ膏ニ化膿成ルニカシテ穿針法ニ熱焼灼等ニ因リ之ヲ
止スルニ膏ノ膿腫ニカシテ其種ヲ膿内ニ増息セハ血管ニ富ミカスニ膏狀
組織ヲ剝取ルニ血ヲ来シ膏常ノ止血法ニ効ナク止テ得ル長キ血出ニ針ヲ取
膿腫ノ根ヲ貫穿シテ膿ヲ結核ニシテ膿腫ノ血且膿ヲ絞取ルニ
切開後膏ヲ焼灼成ハフコトニ重テ以テ其且膿ヲ膏融スルニ膏射ヲ防
止スルニ切開ニ速カシテ血ヲ取リ膿毒ヲ去リ老瘻ヲ治スルニ効ナク
甲狀腺腫切開ハ容易ニ行ハスニ所ノ三層ニ至リ且其一部ヲ切開
スルニ準リテ容易ナリトス而シテ甲狀腺腫ノ大部分及部位其他周囲ノ疼痛
ハ若シキ其ノ長キカシテ一定ノ手術ヲ行ハスニ能ハスニカシテ膿腫
ノ諸件ハ以テ手術ノ法別ニ記載スルニ
五腫瘍ノ周囲ヲ膏ヲ露出スルカ爲メニ皮ヲ切開シテ之ヲ露ス

この二は此會此和ニ成形所及複合所
(尿道層ノ中傍ヲ)ヲ施シ其豫ヲ程
合セシムル也

氣管及食道、交通ニ外傷ニ起リタルハ異物、貫穿及腐敗性食道瘻、
腫、膿也ニ由リ來ルルヲ又息ノ病ニ先天性瘻ニ由リ交通スルルヲ
キ、肺尖ヲ起シテ連レテ生ズル死ヲ致スモノナリ
食道、ノ、來ルル、刺創及銃創ハ食道其側方ヨリ侵襲セラルル由リ
之ヲ救フ此種、於テニ勢カ盛テ肉芽ヲ生ズニ至ルニテハ食道消息
子ヲ以テ管表ニテヲ塞ス何トモハ食物ノ一汗、食道用田、吉且哉ニ
女者ニ奇壯性時、高部、起スルカレハナリ
尖銳ヲ銳録ヲ有ス異物ヲ嚥下スル者ニ發スハ食道、損傷ハ息ニ危
峻ニ屬ス故テ尖銳ハ骨片、硝子、碎片、魚骨、針、吸、毒、等ニ因リ發スル刺傷
ハ必ス而シテ、注、血、管、中、ヲ經過、近傍、ノ、遠隔、ノ、患、下、ニ、及、ブ、小、切

開テ施スニヨリ容易ニ摘出スルキヲアリ、鉗ニ以テ之ヲ取テ、運動ニ由リ、逆走シテ大動
脈、筋、等、ノ、大、血、管、ニ、刺入シ、強、刺、由、血、ヲ、起シ、テ、患、者、死ニ、至ル、カ、リ、テ、死、後、僅
カニ、道、直、部、愈、下、部、ニ、其、針、銀、腸、内、ニ、進、入、ス、ル、虞、ハ、ナ、リ、テ、血、管、切、断、ハ、
ナ、ス、ル、針、ハ、大、動、脈、心、臟、ニ、及、ビ、内、等、ニ、穿、入、セ、バ、極、大、ノ、危、険、ヲ、起、ス、ル、カ、レ、
尖銳、ヲ、以、テ、異、物、取、出、ス、ル、ハ、骨、質、異、物、大、ニ、概、等、其、他、異、物、ハ、魚、骨、如、キ、直
達ニ食道腫、氣、刺、ヲ、來、ス、ル、カ、レ、ハ、鉗、ニ、以、テ、其、食、道、ニ、指、入、ス、ル、由、リ、テ、其、患
ノ、膿、膿、ヲ、取、ル、其、部、貫、穿、シ、テ、食、物、ノ、食、道、用、田、結、目、部、内、ニ、穿、入、ス、ル、
アリ、又、注、入、異、物、ノ、氣、管、ニ、貫、穿、ス、ル、カ、レ、ハ、食、物、氣、道、ニ、穿、入、ス、ル、カ、
レ、ヨ、リ、テ、死、ヲ、致、ス、者、ナリ、其、他、食、道、内、異、物、ノ、患、者、ハ、氣、管、ヲ、壓、迫、ス、ル、カ、
宜、息、ヲ、致、ス、ル、カ、
食道用田結目部内ニ銀液穿入スルニ其是物貫穿ニ由リ、膿膿貫穿ニ
由リトテ同ズ常ニハス危殆ニ者ニ屬ス、直達、孔、因、ト、大、切、ト、作、成、ハ、膿

下ノ此消息ノ下端ハ月階ニ多クハ木ヲ製シ一何成ニ何ノ孔口ヲ備ヘ其
孔口ニ何ナルキハ若其水平ヲ異ニシテ其側ニ位スルモノナリ

食道健在ニシテ消息ヲ挿入ニ際シテ只其一節可抗抵ヲ感ス是即食道ノ

入門ニテ喉頭軟骨ハ軟骨後軟骨ニ近接ニテ位スルニテ抗抵ヲ感スルニ

ハ此ノノ示指ノ舌根ニ送リ合合爲軟骨軟骨ト名ニ粘膜聚積ニ由リ

合爲軟骨ト名ノ間ニ指端ヲ送レシメ之ヲ釣ルニ由ルニ合下軟骨ニ向テ

動ルニ以テ喉頭ノ前方ニ進クニハ此際舌指ニ食道消息ヲ下端軟

リ咽頭壁ニ向テ之ヲ壓送ス可シ之ノ舌根抗抵ヲ感スル自ラ食道ニ滑送スルニ

食道消息ヲ挿入後合管者ヲ強クト強ク其外端處前ニ投出セ都
ニ海リヲ有シ而シテ後ニ合管者返リ滑送スルニ若ク身滑送速キテ合管
壁ノ軟弱ト促カシ指ノ吸吐ニ於テ之ヲ如ク海リ内ニ入流セシムルナリ

食道消息ヲ又胃中合有物ヲ排除スル用ヲナシ任令ノ中患在ニ於テ

ハ如ク此目的ヲ達スル爲メ滑送ノ用ヲ強クシテ能ク内何ニ滑送スルニ

之ヲ強クシテ之ヲ強クシテ滑送スルニ滑送ノ用ヲ強クシテ能ク内何ニ滑送スルニ

心持ヲ強クシテ之ヲ強クシテ滑送スルニ滑送ノ用ヲ強クシテ能ク内何ニ滑送スルニ

精神弱者飲食ヲ拒ミ口ヲ塞グ用ツル者ニハ合管者ヲ行ハストスルニ口ヲ塞

道消息ヲ送スル能ハスルニ此際口ヲ閉カスニテ喉頭ヲ強ク推テ隔離セシムルニ指

端ヲ強クシテ之ヲ強クシテ滑送スルニ滑送ノ用ヲ強クシテ能ク内何ニ滑送スルニ

技術ニ於テハ強クシテ滑送スルニ滑送ノ用ヲ強クシテ能ク内何ニ滑送スルニ

小兒ニ消息ヲ挿入ニ際シ厚ク口ヲ挿入セシテ若ク指ヲ咬ムルニ

送ルニハ指ヲ咬ムルニ下唇ヲ下門齒ニ出離銀ニ向テ圧送スルニ此際

ハ任令ノ指ヲ咬ムルニ下唇ヲ下門齒ニ出離銀ニ向テ圧送スルニ此際

ハ任令ノ指ヲ咬ムルニ下唇ヲ下門齒ニ出離銀ニ向テ圧送スルニ此際

第二十二項 食道内異物ノ療法

細管を以て嚥下せしむる食塊(任之太肉片)ノ食道内ニ残留せし時ハ
胃ニ之ヲ胃中ニ排擠スルニ之ヲ行フニ圖ルニ示スル如キ鯨骨條消息子ノ鯨骨
性球頭ヲ有スルモノヲ以テ之ノ所謂食道排擠器トシテ用フヨリテス之レ
鯨骨條消息子ノ下端ニ一塊ノ海綿ヲ固着セシメテ又由行ノ時細管共
鏡ヲ果物ノ只ニ食道ヲ壓排スルニ使テ胃中ニ降シ置ルニ當リ此
ニ相違スル不慮ニヤ故ニ適宜ノ器械ヲ以テ食道ヲ上ニ送リ由
摘出スルヲ良クス之ニ屬スル異物ハ殊ニ骨片塊片梅核針類ヲ魚
骨他石ト摘出シ難クハ其ノ為ニ疎解シ胃中ニ遣テ胃液ノ作用ニ遣テ骨
片異物軟化スルニ使フニ此ノ魚骨他ノ骨片ノ固ク摘出セザルハカスレ而シテ
銅貨ノ胃中直腸ニ達スルニ固ク銅中蓋ヲ嵌テ鏡ヲ果物ノ只ニ當リ無
稽ノ屬スル何レモ胃ニ遣テハ其ノ體ヲ碎ク一ノ和候ヲモ察スルヲナシテ腸ヲ

經過シ大腹ト共ニ排世セラシ高ク變化ヲ呈セカレ或ハ僅ニ酸化セシニ過キナル者
カハ之ヲ食料又可及的ノ口内ヲ摘出スルヲ試ムヘシ

大人ニ在リテハ異物摘出器械ヲ挿入スルニ先ニ有球頭鯨骨條消息子ヲ以テ
異物ノ存在ト否及ヒ其位置ヲ探知スルニ即チ異物ノ食道ノ最上部ニ位置スル
最ニ多ク之ニ次テハ喉門ノ直上ニ在ルモノ多シ又食道ノ中央部ハ其内至最ニ薄
キカ故ニ異物ノ残留スルハ極ニ稀ニ且時ニ針或ハ魚骨ノ其塵ヲ刺入ス
ルカレバ即チ其ノ患甚切ニ推シテ器械ヲ挿入ニ困難ナキハ消息子ノ摘
出ヲ有キ直ニ摘出法ヲ行フヘシ

食道異物ヲ除去スルニ良キ有ルハ摘出器械ハフッキングレーニ良ノ釣
針器ナリトス此器ハ鯨骨條消息子ノ下端ニ銅鐵或ハ洋銀ヲ以テ
製シタル有蓋小籠子ヲ合スル者ニ之ヲ挿入スルニ際シ小籠子ノ平端極
ハ食道ノ前後壁ニ準シテ下降スルモノナリ而シテ挿入シ異物下部ニ

下降スニ至リ之ヲ降引ニル中ハ小竹籠子ノ上段ニ物ヲ支テ之ト共ニ降出ス
ルヲ得ル其ハ况信ニ釣針ノ魚ヲ釣ルニ異ナラズ此器ハ本來便
弊ヲ摘出スノ目的ヲ以テ構造セシメテ魚ハ又骨ヲ摘取及針ノ類ヲ
釣出スルヲ得ヘシキリ而シテ小籠子大ナリ管通因至テ大ナリ準スルヲ要スル法
ニ大人且小兒ニ使用スルニ便ナリ大ニ異ナシテ多ク被備スヘシ
釣針ノ器ヲ以テ其物ヲ釣出スルニ當リ其物ヲ持テ大ニ管通ニ
頭腦運送スル一瞬間ニ於テ小籠子ヲ脱シ喉頭内ニ陥落シ為ニ窒息ヲ
起スルリ宜シク注意スヘシ

右ニ記セシ釣針器ニ次テ有用ナルハワイズルノ魚骨釣針器ガレシニ在リ
ナリ此器ハ概攪此球頭ニ終ルルニ鯨骨條ヲ彈力カラテ之ニ挿入シ
カテラレテノ下端ニ球頭トシテ自ニ歎多ク反リ懸置ヲ裝合セテ者ヲ之ヲ食
道内ニ挿入シ其物ノ下部ニ置ルキカラテ之ヲ球頭ニ向テ圧送スルハ其懸

海綿

動機致成シテ内筋ノ命出カシ之ヲ上ニ降出スルニ此管通器ヲ掃拭スルニ
骨ノ器ヲ用テ其器ハ鯨骨條ノ命出カシテ其物ヲ持テ大ニ管通ニ
其ニ由リテ其物其位置ヲ變ヘ管通ノ長短ニ一致スルニ至リ其物ヲ核ニ由リ
容易ニ管通ニ挿送セシムルニ至リ而シテ釣針器ノ形ハ固シク
咽喉部ニ於テハ只管通ノ最上部即チ軟骨及頸椎ノ間ニ箱留スル
是物ヲ摘出スルノ用ニ供スルニ其物ヲ摘出スルニ至リテハ其物ヲ
似製スルヲ得ヘシ即チ管通ノ鯨骨條ヲ取リ乾燥シ正縮海綿
此ニ加ヘテ其物ヲ上方ニ裝合シ箱蓋ヲ固シテ其物ヲ
此器城ヲ會通ニ挿入シ其物ノ下部ニ送り暫ク其物ヲ正縮海綿
内ニ貯藏スルニ其物ヲ水ヲ飲ミ其物ヲ正縮海綿ニ入レテ其物ヲ鯨骨
条ヲ用テ之ヲ其物ヲ正縮海綿ニ正縮海綿ニ入レテ之ヲ正縮海綿
内ニ貯藏スルニ其物ヲ正縮海綿ニ正縮海綿ニ入レテ之ヲ正縮海綿

不通時特於下胸部食道ニ位スル胃切開所ガストロヲ施シ持久性會
瘻ヲ造ルコトアリ

可通性瘻瘻ヲ擴張スニ消息ヲ用ル所ニ代テ較速佛醫トシラトクハ
内會通切開所イグゴトミアヲ施サレ時所ニ會通切開子オカソフアト
ルニ易域ヲ以テ之ヲ行フモノナリ(會通切開子ノ造捨ニ尿道切開ニ用
コトウシガ在ル尿道切開好トリスニ差似ス)此ニ内會通切開所ハ
是嶮ノ術ヲ造ル時所ヲ行ヒ患者七人中四人ノ死ニヨリ来セリ

第五項 會通瘻腫性瘻瘻ノ療治

會道、腫腫性瘻瘻ニ醫學ノ今日ノ面目ニ於テハ猶不治ノ疾患屬
ス其部位會道、頸部ニ在ルハレセウチオン所ヲ施シテ、腫腫ニ侵サレ
タル部ヲ除クニコトアリ、雖凡常ニ首瘻ノ是嶮ヲ免レシモノナリ
瘻腫性瘻瘻ノ多ク、和ニ被瘻性瘻瘻ト稱シラトウハ、此ノ消息ヲ

用ニコトアリ、塞レ之ヲ挿入シ且ツ瘻腫ヲ生スル部ヲ通過スニ當リテ、袖ヲ挿
入シテ、之ヲ壓送セサルコトナク、(蓋ニ動モスレハ、球頭瘻組織ヲ破リ
或ハ出血或ハ急性ノ腐敗ヲ起シ終ニ貫穿セラルコトナリ)又消息ヲ
球頭瘻瘻ニ位シ、瘻且或ヲ穿テ會道周圍組織ニ達シ、此初ノ
腐敗性瘻ヲ起シ患者ヲ死ニ至ラシムコトナリ、而シテ有球頭消息ヲニ以テ
柔軟ナル彈力性會道消息ヲ以テ是嶮トキモ、トシ且ツ同時ニ
ニ當テ行フ、俚ルニ此ニ瘻瘻部ノ瘻阻礙健復スルニ彈力性
消息ノ容易ク成由レ、通過ノ効ヲ奏セサル者ナリ、瘻ニ位テ、田ニ通
直ニ挿用スル

瘻腫性瘻瘻ニ於テハ會道切開所ヲ施スコトアリ、且ツ通ニ瘻瘻ハ、

如シ

另一果實瘻、空巢瘻瘻ノ上部ニ瘻角シ他者ニヨリテ之ヲ摘出シ能ハス

第一 扶明強弱ノ右種ノ内息子余道過セカ病ニ於テ切開ヨリ
 指ヲ送入シ扶明部ヲ擴張ス時ニ物創死ヲ放ツ時ニモ
 扶明ノ部位ニ由リ胃切開所ヲ行ヒ持之性ノ胃積ヲ造ハルマ
 腐敗性強ク會道腫腫ニ於テ會道内息子ノ容れヨリ防番限
 ヲ確任シ腐敗性強ク而シテ除ス時ニ大ニ其効アリトシ(蓋成ニ括
 魯思更知ノ弱階所ヲ見モ可トモカ)此レモテ元令ニ經驗也
 第二十六項 會道切開所ヲ示シテ又會道切開ヲ論ス
 キコトニ一カ氏ノ統計ニ由リ會道切開ヲ施セシ五十二人ノ患者中 廿六
 ノ治癒ヲ見而シ會道異物ニ由リ切開ヲ施セシモノ 三十三人中 死ニ届セシ
 者ニ只六名ニ止レリ
 會道切開所ノ適性極ニ良ニ前ニ論ヤリト能ク更ニ之ヲ指シテ其左ノ如シ

甲) 會道異物指角

乙) 一種慢性扶明

丙) 一種慢性扶明

會道切開所ニ於テ、致軟部ニ於テ切開スルニ會道部ニ由リ標的ヲ在ル
 時ニ大ニ手所ヲ容易ニスルノ便アリ大ニ異物ニ於テ其物自ラ標的ニ至ル能
 也他、此ニ於テ切開スルニ會道内ニ挿送スルニ器械ヲ用テ標的ニ至
 即ノカ、バシリニシリイセ、會道彈簧器是ナラニテトボリテ
 國中(カ)ノ彈子ニ器械ヲ挿入スル際ニ其球頭
 端子ノ鉸製套散内ニ潜伏シ一皮ノ初達
 此ニ至リ彈子ノ端ノ輪圍ヲ上ニ穿ク時ニ球頭及テ套散ヲ脱シテ其右
 例ニ位ニ鉸製ヲ出テ會道ノ左壁ヲロクニ向テ圧縮スル者ナリ一若シ此器械
 フルキヤ、左カニ用テ此ノ長キ鉸製針子ニテ、鉸製球頭ヲ有ス
 鉸骨條内息子ヲ代用スルニ即内息子球頭ヲ異物指角部ニ挿
 穿部ニ送リ指ヲ以テ會道外壁ヲ接触スルニ切開スルニ部令ノ標的



此ニ至リ彈子ノ端ノ輪圍ヲ上ニ穿ク時ニ球頭及テ套散ヲ脱シテ其右
 例ニ位ニ鉸製ヲ出テ會道ノ左壁ヲロクニ向テ圧縮スル者ナリ一若シ此器械
 フルキヤ、左カニ用テ此ノ長キ鉸製針子ニテ、鉸製球頭ヲ有ス
 鉸骨條内息子ヲ代用スルニ即内息子球頭ヲ異物指角部ニ挿
 穿部ニ送リ指ヲ以テ會道外壁ヲ接觸スルニ切開スルニ部令ノ標的

今所後會道制のヲ總合する通否ニ付スル一定ノ驗証を以て之を
合せしむれば精密ニ飲食物雖接同ニ輸入シ會道用田吉帝
或ハ特富多ク之ヲ起スラ臨カレハカラス一若シ會道閉息ニ由リテ會
糧ヲ施スルハ確守ニ此を免カレハシ又會道且外史ノ制口ヲ總
合スルテ設置スル雖モ患者自ラ飲食物ヲ嚙下シ其管類ニ障
害之而シ嚙下ノ際會道ヲ閉出ス會道ノ管多ク制口ヲ閉出セ
シモノナラズ年制口制次ニ肉芽ヲ生シ治癒ニ付クハ
會道ニヨククシハビロトクノ始ヲ生シ就テ之ヲ行ヒシモノ
ノ理過ヲ取リ會道ノ兩端被覆ニ由リテ再ニ結合シ嚙下
ニ至リ此年制口成積ヲ押シテ之ニ及ホシ腫腫ニ侵
部ヲ切除スルノ可ク高知團中ニアリテ此類ノ年制口
未只一回ヲ生ニシ之ヲ施セシムル而其成積ニ付良ナリト云フ

第二十七項 胃切開術トシテ胃瘻ヲ除術

胃ハ腹内ノ系腸ニ屬スル其在胃切開術ハ會道ノ積患ヲ察察スルハ故
為ニ之ヲ論セザル可ラス而シ此術ノ適意ヲ欲シ前論ハ由リ積積
水ヲ積腫性積聚ニ付リトス其何時ノ精神病患者自後ノ目的ヲ以
テ肉又ガリ等ノ異物ヲ嚙下シ其大ニ此口ヲ通過シ難キ際胃切
開ヲ施スルアリ此其具物ハ胃切開ヲ施カスルニ付此口ヲ得ハキ
初局ニ在著性腫膜ヲ生シ次テ化膿シ腹膜ヲ凡後スルナリ
腹壁膿瘍ヲ生シ之ヲ切開シ其具物即其内ニ付テ摘出スル得ハキ
之ナリ此此經過ヲ取ルモノ胃切開術ヲ施セシムル其前後致テ不良ナリ

トセス

統計ニ因リ會道狭窄ノ為ニ用テ同ヲ施セシモノ三十三人
治癒セシモノ僅ニ五人ニ過キスト雖異物摘出ノ為ニ胃切開ヲ施セシ者ハ

